

1. 開催日時・出席者等

○日時： 平成 30 年 12 月 25 日（火） 11:45～12:45

○場所： 中央合同庁舎 8 号館 10 階 平井国務大臣室

○Pitch テーマ： 世界・人類の課題を解決する大学発スタートアップの起業・成長支援

○招へい者： 郷治 友孝 株式会社東京大学エッジキャピタル代表取締役社長

○出席者： 平井国務大臣、左藤副大臣、幸田内閣府審議官、中川審議官（科技）、堀内参事官（科技）、水元参事官（科技）、石井企画官（科技）、住田事務局長（知財）、高田事務局長（宇宙）、三輪 CIO（IT）、八山参事官（IT）、寺井秘書官、西山秘書官、柴山秘書官

2. 郷治社長からの説明

○東京大学エッジキャピタル（UTEK）は、世界・人類の課題解決を目的とする、東京大学を中心とした大学発ベンチャー向けの投資を行っている。代表的な支援先としては、ペプチドを活用した医療品研究開発を行うペプチドリーム、産業用ロボットの知能化を手掛ける MUJIN 等。

○優れた Science/Technology、強力なチームワーク、グローバルな市場や課題への対応を投資ポリシーとし、特に創業前のシード/アーリーステージにおける手厚い支援が特徴。当該段階において、政府支援プログラム（競争的資金）も積極的に活用している。

○創業以来 90 社以上を支援してきており、うち約 10 件を IPO、また同じく約 10 件を M&A した。成功のためには良質な経営者のアサインが不可欠であり、探索には時間も手間もかかる。

3. 主な質疑応答・議論

○郷治社長が会社を立ち上げた 15 年前に比べ、現在は、大企業を含め起業に対する抵抗感が減ってきておりベンチャーを起こしやすくなった反面、研究者が本来研究にかけるべき時間をビジネスに取られているケースも見受けられる、との意見があった。

○我が国に比して米国等で多くの民間資金が大学に還流している背景として、寄付文化が根付いていることに加え、税制優遇制度の面でも優れている点も大きいとの指摘があった。

○官が研究者を支援する際には、できるだけ分散的にし、かつ基礎研究を中心にできるだけ自由に使わせる方がよい、との意見があった。また、研究者の評価は官ではなく、同じ研究者の中でなされるべき、との指摘もあった。

○課題先進国たる我が国で開発されるソリューションが、人類全体・世界市場へと早期に展開されるべく、政策的な期待が提示された。

(了)

(速報のため事後修正の可能性あり)